



Handwritten title or header in cursive script, possibly reading '花下草子' (Hanashita Koushi).

以り多能の世盡く之ら刺

く繋ぎし心乃事申す事

事わく事知くし之以り下

暖多居はく世はく人好庵

此事し事妻く此く念存く事按

く道り下下り事さくし列り

事空く事しも事くも立事は事

事也

一上毛の事申す事申す事

く事子と事下事又事事事

事事く事事事事事事

事事く事事事事事事

事事く事事事事事事

事事く事事事事事事

事事く事事事事

一々物事事事事事事





三心と心まてり

一、招物二葉中の徳心  
向も徳心ありて事なり  
徳心ありて事なり  
向も徳心ありて事なり

一、年中も向も徳心ありて事なり  
徳心ありて事なり

向も徳心ありて事なり  
徳心ありて事なり  
向も徳心ありて事なり

一、向も徳心ありて事なり  
徳心ありて事なり  
向も徳心ありて事なり

向も徳心ありて事なり  
徳心ありて事なり  
向も徳心ありて事なり

向も徳心ありて事なり  
徳心ありて事なり  
向も徳心ありて事なり

向も徳心ありて事なり  
徳心ありて事なり  
向も徳心ありて事なり



心け付羽振ひきても何事  
ふねの無何多思際  
そのもほに随何かすか  
あゝ〜ゆえき了味候に  
此中く種とよ〜らゆる  
何事ゆらよつ〜い  
何事ゆられ多〜い

か〜り〜

二

あ〜〜はをききま〜い  
信〜ふ面は〜

保白〜小の文書とれや〜

早〜ん〜しあをいのか〜

梅苔の味

物書のまはちれば〜口をの継

とま〜れて方角由り〜書の書

三

ふ〜く〜花のた〜

ふ〜く〜花のた〜  
ふ〜く〜花のた〜  
ふ〜く〜花のた〜



二五

あつゝ紅をまきまきし句のわく  
伝へる面はし

保白く水の文書に記す

早んじあまひのけり

梅苔の味

物書のまはちればく口をの継

とまらして方角のりまの書

草

くゆく草の花のまよ

ふとあまえし句のまきしあえ  
く神にあまし句もえれまきし

まき木の梢のりまの時鳥

け句のまきしあまのりまの句も  
まき木に記したるまき木のりま  
のりまのりまのりまのりまのりま  
まよるまよるまよるまよる

唯草の味

一かきまき



Handwritten text in a cursive script, likely a continuation from the previous page. The characters are difficult to decipher due to the style and fading.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list from the previous page.

山竹木乃生

打白地